

定例記者会見資料

平成30年5月25日

教育部文化課

## 国宝「内行花文鏡」(平原遺跡出土)複製鏡の寄贈について

このたび平原遺跡出土の国宝「内行花文鏡」の複製鏡を糸島市にご寄贈いただくことになりました。つきましては、上記のとおり、受贈式を執り行いますので、お知らせいたしますとともに、当日の取材につきましてもよろしく願い申し上げます。

### 記

- 寄贈品 国宝「内行花文鏡」(平原遺跡出土)複製鏡 1点  
雲台 1点  
大きさ 直径46.5cm 重さ約10kg(複製鏡本体)
- 寄贈者 上田 恵美 氏  
西本熔工所 社長 西本 十三次 氏  
吉田着色 社長 吉田 忠司 氏
- 日時 平成30年6月3日(日)14時～
- 場所 糸島市立伊都国歴史博物館 4階研修室  
福岡県糸島市井原916
- 受贈式出席者 上田 恵美 氏  
西本熔工所 社長 西本 十三次 氏  
藤綱合金 社長 藤綱 伸晴 氏  
金山媛神社 宮司 藤森 良祐 氏  
糸島市長 月形 祐二  
糸島市教育委員会 教育長 家宇治 正幸  
糸島市教育委員会 教育部長 泊 早苗  
糸島市教育委員会 文化課長 岡部 裕俊  
糸島市立伊都国歴史博物館館長 角 浩行  
ほか寄贈者側関係者等

## 6. 寄贈にいたる経緯

このたび、故上田富雄氏(上田合金社長・東大阪市)が製作した平原遺跡出土内行花文鏡複製鏡を糸島市にご寄贈いただくことになりました。

上田富雄氏(故人)は、1960年創業の銅合金鑄造業、上田合金の社長で、1996年島根県加茂町(現雲南市)の加茂岩倉遺跡出土の銅鐸(現在、国宝)に接して、古代の人々の技術力の高さに驚き、その技術に迫ろうと翌年銅鐸の精巧な複製品を製作しました。その後も、長年培われてきたわが国のモノづくり技術の継承とこれからの鑄造業の発展を目指し、全国の著名な遺跡の出土品(銅鐸や銅鏡などの金属製品)の複製を手掛けられてこられました。

これら上田氏が製作した複製品のうち最高傑作のひとつといわれるのが、平原遺跡出土の国宝「内行花文鏡」(直径46.5cm)の実物大の複製品です。鑄型に溶かした金属を流し込んでつくる「鑄造」で製作されたもので、鏡面を研磨し、見事な輝きをみせています。このような大型の銅鏡の鑄造は現在の技術でも非常に難しいと言われており、上田氏の鑄物職人としての技術の高さを示しています。また、大きさや文様だけでなく材料の成分比(銅とスズと鉛の比率)も平原遺跡の出土品にあわせられており、国宝「内行花文鏡」の作られた当時の姿を再現したものです。

上田氏は2015年に急逝され上田合金も倒産してしまいましたが、上田合金の鑄物職人であった藤網伸晴氏が、故人の遺志と会社の設備の一部を引き継ぎ、新たに藤網合金を設立されています。

今回、この複製品を、原品の出土地である糸島市で展示・活用していただきたいというご厚意により、上田社長と懇意であった藤森良祐氏(金山媛神社宮司)を通じて、糸島市にご寄贈いただく運びとなりました。

### 《本件に関するお問合せ先》

糸島市立伊都国歴史博物館(糸島市教育委員会文化課博物館係) 角・河合  
〒819-1582 福岡県糸島市井原 916 TEL 092-322-7083 FAX 092-321-9155

## 寄贈資料の概要

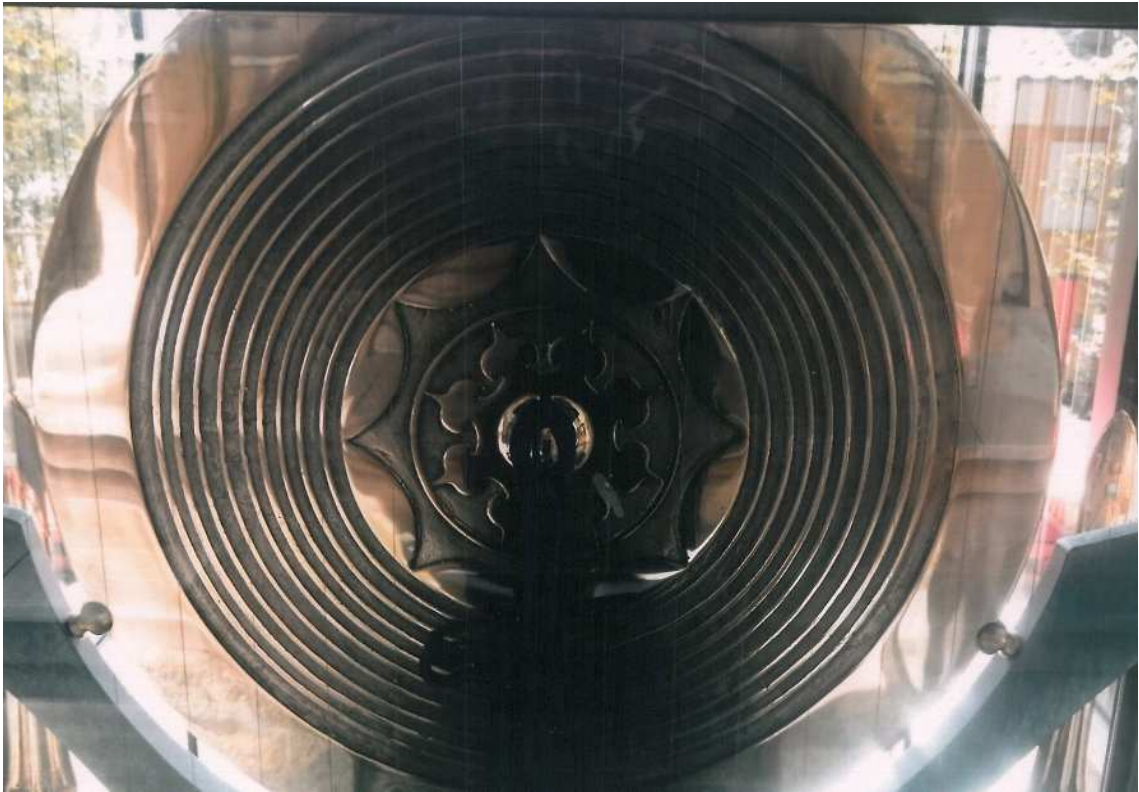
寄贈資料名 国宝「内行花文鏡」(平原遺跡出土)複製鏡 (展示台含む)  
大きさ 直径46.5cm、重さ約10kg(複製銅鏡本体)  
弥生時代の終わり頃(約1,800年前)の銅鏡で、糸島市有田の平原遺跡1号墓から出土し、同じものが5枚出土している。日本最大の銅鏡として知られる。平成18年6月、国宝指定。



原品 平原遺跡出土の国宝「内行花文鏡」(10号鏡) 直径46.5cmでわが国最大の銅鏡



参考写真 台付(写真は京都府の神社に寄贈されたもの)



参考写真 (裏面・文様面)( 写真は京都府の神社に寄贈されたもの)



参考写真 (表面・鏡面)( 写真は京都府の神社に寄贈されたもの)